

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間の尊厳と自立	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養うため、人間を理解し、尊厳の保持、自立について理解する。				
	<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳の意義と利用者主体について説明できる。</li> <li>・人権思想を学び、権利侵害と権利擁護について説明できる。</li> <li>・自立支援についてレポートにまとめ考察することができる。</li> <li>・尊厳を守る介護について説明できる。</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人間の理解①	11	権利擁護②
2	人間の理解②	12	自立の概念の多様性
3	人権思想	13	自立とは
4	日本の諸規定	14	自立支援
5	人権・福祉理念の変遷①	15	尊厳の保持と自立支援
6	人権・福祉理念の変遷②	16	
7	人権・福祉理念の変遷③	17	
8	人権・福祉理念の変遷④	18	
9	人権尊重	19	
10	権利擁護①	20	

**講義方法**

講義、演習、小テスト2回

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験50%、小テスト20%、レポート20%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版

**参考書**

福祉小六法 2022

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係とコミュニケーション I	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b> ・人間関係形成の為の自己覚知・自己開示を説明できる。 ・コミュニケーションの概念・手段を説明できる。 ・対人援助関係におけるコミュニケーションの基礎を説明できる。 ・組織におけるコミュニケーションの特徴と方法を説明できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	人間らしさのはじまり		11	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則①	
2	自分と他者の理解		12	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則②	
3	発達心理学からみた人間関係		13	組織の条件とコミュニケーションの特徴	
4	社会心理学からみた人間関係		14	組織における情報の流れ	
5	人間関係とストレス		15	組織において求められるコミュニケーション	
6	第1節まとめ		16		
7	コミュニケーションの概念・基本構造		17		
8	コミュニケーションの手段		18		
9	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション		19		
10	対人援助における基本的態度		20		

**講義方法**

講義、演習、小テスト

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験90%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版

**参考書****予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	社会の理解 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 生活と社会の関係性を体系的に捉えるため、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を学び、生活の場としての地域という観点から地域共生社会、地域包括ケアシステムを理解する。また社会保障の基本的な考え方、しくみを理解する。				
	<b>到達目標</b> ・生活と社会の関わりと地域における自助・互助・共助・公助を説明できる。 ・地域共生社会、地域包括ケアシステムの概要について説明できる。 ・社会保障制度の基本的な考え方としくみを説明できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	生活を幅広くとらえる		11	社会保障制度～年金保険～	
2	ライフスタイルの変化		12	社会保障制度～医療保険～	
3	家族の機能と役割		13	社会保障制度～その他～	
4	社会・組織の機能と役割		14	社会保障関係費	
5	地域・地域社会、地域社会における社会支援		15	社会保障給付費	
6	地域福祉の発展		16		
7	地域共生社会・地域包括ケア		17		
8	社会保障①		18		
9	社会保障②		19		
10	日本の社会保障制度の発達		20		

**講義方法**

講義、演習、小テスト(毎回最後に実施)

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版

**参考書**

福祉小六法 2022

国民の福祉と介護の動向 2021/2022

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
	<b>到達目標</b> ・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズと介護福祉を取り巻く状況を説明できる。 ・介護福祉士の専門性と倫理を理解し、尊厳を支える介護、自立を支える介護が説明できる。 ・地域、看取り、災害等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能を説明できる。 ・ICFの視点に基づくアセスメントからエンパワメントを理解し、自立支援と介護予防を説明できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	介護の成り立ち①		21	自立支援③	
2	介護の成り立ち②		22	演習	
3	介護の概念の変遷①		23	ICF①	
4	介護の概念の変遷②		24	ICF②	
5	介護福祉の基本理念		25	ICF③	
6	介護福祉士の活動の場①		26	演習	
7	介護福祉士の活動の場②		27	自立支援と介護予防①	
8	介護福祉士法①		28	自立支援と介護予防②	
9	介護福祉士法②		29	自立支援と介護予防③	
10	カリキュラム変遷①		30	演習	
11	カリキュラム変遷②		31		
12	支える団体①		32		
13	支える団体②		33		
14	介護福祉士の倫理①		34		
15	介護福祉士の倫理②		35		
16	介護福祉士の倫理③		36		
17	介護福祉士倫理綱領①		37		
18	介護福祉士倫理綱領②		38		
19	自立支援①		39		
20	自立支援②		40		

**講義方法**

講義、演習、小テスト(4回)

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第2版

**参考書**

国民の福祉と介護の動向2021/2022、福祉小六法2022

※使用する参考書は適宜指示

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。



## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
	<b>到達目標</b> ・介護を必要とする高齢者や障害者の「生活のしづらさ」を説明できる。 ・「その人らしさ」、「生活ニーズ」について説明できる。 ・フォーマルサービス、インフォーマルサービスを理解し、地域福祉にかかわる組織・団体の現状と課題について調べ発表できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	生活とは何か		21	高齢者・障害者のフォーマルサービス①	
2	演習		22	高齢者・障害者のフォーマルサービス②	
3	高齢者の暮らし①		23	インフォーマルサービス	
4	高齢者の暮らし②		24	地域連携機関①	
5	障害者の暮らし①		25	地域連携機関②	
6	障害者の暮らし②		26	地域連携機関③	
7	障害者の暮らし③		27	地域連携の実際①	
8	その人らしさとは何か①		28	地域連携の実際②	
9	その人らしさとは何か②		29	わたしの介護福祉士像①	
10	生活ニーズ①		30	わたしの介護福祉士像②	
11	生活ニーズ②		31		
12	生活のしづらさ		32		
13	生活のしづらさへの支援		33		
14	第1章まとめ		34		
15	高齢者のフォーマルサービス①		35		
16	高齢者のフォーマルサービス②		36		
17	高齢者のフォーマルサービス③		37		
18	障害者のフォーマルサービス①		38		
19	障害者のフォーマルサービス②		39		
20	障害者のフォーマルサービス③		40		

**講義方法**

講義、演習、小テスト

**講義で使用する機器・教材**

ipad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験50%、小テスト30%、レポート10%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版

**参考書**

※使用する参考書は適宜指示

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	1年
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うため、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を理解する。				
	<b>到達目標</b> ・介護におけるコミュニケーション技術を理解し実践できる。 ・言語・非言語・準言語コミュニケーションを意図的に使いこなせる。 ・介護福祉職は家族と協働していく支援のパートナーであることを理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション／コミュニケーションとは	9	家族への助言・指導・調整
2	コミュニケーションの意義と目的	10	家族関係と介護ストレスへの対応
3	コミュニケーションの基本	11	コミュニケーション総合演習 準備
4	バイステックの7原則／SOLER	12	コミュニケーション総合演習 準備
5	繰り返しの技法／質問の技法	13	コミュニケーション総合演習 準備
6	要約の技法／沈黙すること	14	試験
7	言語・非言語・準言語コミュニケーション	15	まとめ
8	動機付け・ものの見方・意思決定		

**講義方法**

座学・演習(グループワーク)

**講義で使用する機器・教材**

ipad必須

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること

**成績評価方法**

期末試験100%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術

**参考書****予習復習のアドバイス**

人間関係とコミュニケーションと連動した教科になるため、関連付けた学習が望ましい。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	1年
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	44/60
		単位時間数	88/120	単位数	4
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 生活とは何かを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。 生活全体を理解した上で、利用者の潜在能力を引き出し、どのように支援するところが適切かを考え、それを提供していく能力を身につける。 自立支援の観点から、その知識・技術が展開できる能力を養うとともに、利用者の生活の質の向上を考えた援助技術を理解する。				
	<b>到達目標</b> ・生活支援を理解し、そのあり方を考えることができる ・居住環境、衛生管理について理解し、その方法を習得する ・身じたくの介護についてその意義・目的を理解し、その方法と技術を習得することができる ・入浴の意義・目的を理解した上で、その介護方法について習得するとともに、それに伴う移動の技術を習得する ・口腔衛生について理解し、介助方法とその技術を習得する ・食事についてどのように支援すべきかその技術を習得する ・排泄についてどのように支援すべきかその技術を習得する				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	オリエンテーション～生活支援技術全体像の理解～	16	髭剃り・爪・耳の手入れに関する知識と介護技術(生ⅡP21～28)①		
2	生活支援とは(P2～11)	17	口腔衛生に関する知識と介助技術(生ⅡP28～40)①		
3	居室環境の理解と寝具の衛生管理時の留意点(生ⅡP227～)	18	衣服に関する知識と着脱介助技術(生Ⅱ47～64)①		
4	寝具の衛生管理の技術	19	身だしなみの支援練習		
5	寝具の衛生管理の技術	20	身だしなみ 実技試験		
6	寝具の衛生管理の技術	21	身だしなみ 実技試験		
7	寝具の衛生管理の技術	22	中間テスト(筆記・返却・復習)		
8	寝具の衛生管理の技術	23	中間テスト(筆記・返却・復習)		
9	寝具の衛生管理の技術	24	食事の意義と目的(生ⅡP74～101)		
10	寝具の衛生管理の技術	25	食事の介護における多職種連携(生ⅡP96～101)		
11	寝具の衛生管理の技術	26	食事の介助方法		
12	ベッドメイキング 実技試験	27	食事の介助方法		
13	ベッドメイキング 実技試験	28	入浴・清潔の介護の意義と目的(生ⅡP104～111)		
14	身じたくの意義と目的(生ⅡP2～7、P66～70)	29	足浴・手浴・洗髪の知識と技術(生ⅡP134～144)		
15	洗顔・整髪の知識と介助技術(生ⅡP8～21)	30	入浴介助(女性:入浴 男性:清拭)①		

31	入浴介助(女性:入浴 男性:清拭)②	38	排泄の介助 おむつ使用者への介助
32	入浴介助(女性:清拭 男性:入浴)①	39	排泄の介助 おむつ使用者への介助
33	入浴介助(女性:清拭 男性:入浴)②	40	実技総合
34	自立した排泄の理解(生ⅡP158～164)	41	実技総合
35	排尿・排泄障害の理解(生ⅡP194～207)	42	実技試験 (総合)
36	排泄の介助 ポータブルトイレ・トイレでの介助	43	実技試験 (総合)
37	排泄の介助 尿器・差し込み便器	44	実技試験 (総合)

### 講義方法

テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う

各実習室を使用して実技演習を行う

### 講義で使用する機器・教材

iPad必須

### 履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する
- ・教室及び各実習室を使用し、実際に演習を行う授業であるため、演習時には基本的に実習着(ユニフォーム)を着用することとなる。身だしなみを整え出席すること。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること
- ・提出物の提出期限に注意すること

### 成績評価方法

実技:40% 筆記:40%(内訳:中間50%+期末50%) 授業態度(出席率、整容、取り組む姿勢等を評価) 20%

※野呂 80%、三神 20%としてその合計を最終評価とする。

### 教科書

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ(中央法規出版)

### 参考書

適宜指示

### 予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく
- ・実技演習の時間は限られているため、各自復習すること

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	1年
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ (終末期)	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	16	単位数	4
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	睡眠・休息の意義、目的を理解し、具体的で根拠ある介護を展開できる。また、終末期における要介護者・家族の心理的援助を理解する。				
	<b>到達目標</b> ・睡眠・休息のアセスメントに係る知識の習得および具体的介護方法の習得 ・終末期介護の倫理と具体的介護方法、家族援助の理解				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	終末期の介護の意義と目的		
2	終末期の介護の基本		
3	終末期に関するアセスメントの視点と目標設定		
4	終末期における介護の具体的展開①		
5	医療との連携		
6	臨終場面の介護		
7	グリーフケア		
8	まとめ		

**講義方法**

- ・板書、ノート、資料を使用した講義および演習となります。
- ・特別講演

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。
- ・介護実習での実践が可能となるよう、授業時間以外も各自で技術習得のための練習を行うことが望ましい。
- ・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。

**成績評価方法**

レポート、期末試験100%

**教科書**

生活支援技術 I (中央法規出版)

**参考書**

適宜指示

**予習復習のアドバイス**

- ・生活支援技術他項目との関連が多いため、各自で復習を徹底するのが望ましい。



## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	1年
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ (睡眠)	講義曜日	時間割参照	講義回数	7
		単位時間数	14	単位数	4
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	睡眠・休息の意義、目的を理解し、具体的に根拠ある介護を展開できる。また、終末期における要介護者・家族の心理的援助を理解する。				
	<b>到達目標</b> ・睡眠・休息のアセスメントに係る知識の習得および具体的介護方法の習得 ・終末期介護の倫理と具体的介護方法、家族援助の理解				

回数	講義内容
1	睡眠の意義と目的
2	睡眠の介護の基本
3	睡眠に関するアセスメントと目標設定
4	安眠のための介護①
5	安眠のための介護②
6	安眠を促す介助の技法①
7	安眠を促す介助の技法②

**講義方法**

- ・板書、ノート、資料を使用した講義および演習となります。

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。
- ・介護実習での実践が可能となるよう、授業時間以外も各自で技術習得のための練習を行うことが望ましい。
- ・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。

**成績評価方法**

実技20% 筆記80%で評価

総合評価 : 清水 50% 木田 25% 野呂25% で評価

**教科書**

生活支援技術 I (中央法規出版)

**参考書**

適宜指示

**予習復習のアドバイス**

- ・生活支援技術他項目との関連が多いため、各自で復習を徹底するのが望ましい。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護過程 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	野呂勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護過程の基礎とプロセス、介護実践における介護過程の必要性が理解できる。また、ケースのアセスメントにおける情報分析までを実践できる。				
	<b>到達目標</b> ・介護過程の考え方・意義・目的を学び、理解できる ・介護を学ぶにあたって、介護過程の展開を理解し、利用者の自己実現を援助できる視点を養う ・アセスメントの考え方を理解し、記録することができる ・ICFを理解し、介護過程に反映させることができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	介護過程を展開するうえでの基本視点	16	事例の展開(アセスメントまで)
2	介護過程とは何か	17	事例の展開(アセスメントまで)
3	【演習】クラスメイトに旅行先の提案をしよう	18	事例の展開(アセスメントまで)
4	【演習】クラスメイトに旅行先の提案をしよう	19	事例の展開(アセスメントまで)
5	介護過程におけるアセスメント	20	事例の展開(アセスメントまで)
6	【演習】情報収集	21	事例の展開(アセスメントまで)
7	【演習】情報収集	22	事例の展開(アセスメントまで)
8	生情報とそうでないものを区別してみよう	23	事例の展開(アセスメントまで)
9	より質の高い情報を得るために	24	事例の展開(アセスメントまで)
10	効率の良い情報収集のための記録様式	25	介護過程の理解の確認テスト
11	効率の良い情報収集のための記録様式	26	まとめ
12	情報の解釈・関連付け・統合化とニーズ(課題)の明確化	27	介護実習 I.2 事例研究発表
13	情報の解釈・関連付け・統合化とニーズ(課題)の明確化	28	介護実習 I.2 事例研究発表
14	【演習】情報の解釈をしてみよう	29	介護実習 I.2 事例研究発表
15	【演習】情報の質と量の大切さを考える	30	介護実習 I.2 事例研究発表

**講義方法**

テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う  
グループワークの実施

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと
- ・介護実習及び就業に際して直接的に関係する科目の為、欠席はしないこと

**成績評価方法**

事例展開課題(事例展開練習においてアセスメントができているか、実習事例発表態度など) 70%  
筆記試験 30%

**教科書**

介護過程(中央法規出版)

**参考書**

適宜指示

**予習復習のアドバイス**

- ・テキストや関連文献を日常的に使用し、学習すること
- ・資料を多く使用する為、ファイリング等を行うこと
- ・介護実習、就業に直接関連する科目の為、日常的な学習が必要

## 講義要項(シラバス)

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護総合演習 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	45
		単位時間数	90	単位数	3
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護実習に向けての心構えや、それに対する予備知識、動機付けなどの準備を行い、介護施設の概要や、利用者の生活に関して理解する。また、記録の方法や介護実習を行ってみたいの振り返りの重要性についても考え、理解する。				
	<b>到達目標</b> ・介護施設の概要と利用者の生活像、介護福祉士の役割を理解する。 ・実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を明確化・言語化できる。 ・介護実習 I の実習施設の概要と利用者のアセスメントの理解ができ、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	介護実習全体像の理解(14~22)	24	実習計画の必要性と作成方法
2	早期見学型実習とは(対象事業所の理解)	25	実習計画作成
3	施設概要の理解	26	実習計画作成
4	個人票・自己課題作成	27	事前オリエンテーションまとめ
5	個人票・自己課題作成	28	事前オリエンテーションまとめ
6	個人票・自己課題作成 完成	29	事前学習
7	施設のイメージの具体化(映像資料)	30	事前学習
8	施設のイメージの具体化(映像資料)	31	I. 2実習前の確認
9	目標設定と実習記録作成方法	32	I. 2実習前の確認
10	実習生としてのマナーと心得(マイナビ)	33	帰校日 情報収集まで
11	実習生としてのマナーと心得(振り返り)	34	帰校日 情報収集まで
12	実習心得の確認(I. 1実習前日)	35	帰校日 情報収集まで
13	I. 1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	36	I. 2実習後(お礼状・情報用紙作成 等)
14	I. 1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	37	I. 2実習後(お礼状・情報用紙作成 等)
15	I. 1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	38	I. 2実習後・振り返り
16	生活支援体験型実習とは	39	事例研究資料作成作成の方法
17	実習対象施設について	40	事例研究資料作成
18	個人票・自己課題作成	41	事例研究資料作成
19	個人票・自己課題作成	42	事例研究資料作成
20	個人票・自己課題作成	43	事例研究資料作成
21	個人票・自己課題作成 完成	44	事例研究資料作成(リハーサル)
22	介護実習 I. 2における記録作成の留意点	45	事例研究資料作成(リハーサル)
23	介護実習 I. 2における記録作成の留意点		

**講義方法**

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。  
グループワークの実施。

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・提出物・レポートは指定の方法で提出し、期限を厳守すること。(期限を過ぎた場合の受け取りは行わない)

**成績評価方法**

提出物とその内容 100%

※未提出、提出遅れ、内容不足は減点となるため、留意すること。

**教科書**

介護総合演習・介護実習(中央法規出版)

**参考書**

適宜指示

**予習復習のアドバイス**

・事前にテキストを読んでおく。配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。介護実習に直接反映する科目の為、介護過程の予習・復習も行うこと。



## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	1年
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達と老化の理解	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	20	単位数	4
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的、心理的社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。				
	<b>到達目標</b> ・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾患について理解できるようにする。 ・老化に伴う身体的、心理的、社会的な変化や高齢者に多くみられる疾患と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援が理解できるようにする。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
2	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
3	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
4	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
5	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
6	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
7	5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				
8	5章4節 保健医療職との連携				
9	5章4節 保健医療職との連携				
10	まとめ				

**講義方法**

- ・テキストを基にした講義、グループワークおよび演習
- ・必要に応じてフィールドワークを行う

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。

**成績評価方法**

- ・期末試験100%

**教科書**

発達と老化の理解(中央法規出版)

**参考書**

人体解剖図、脳の事典

**予習復習のアドバイス**

「こころとからだのしくみ」を関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な発達段階に応じた介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	認知症の理解 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 認知症の人を取り巻く現状を把握する事はもちろん、ケアを行ううえで必要な医学的知識を学び、実践的な介護展開を行う能力を養う。				
	<b>到達目標</b> ・認知症とは何か、その疾患についてケアと社会資源に関連付けて考え、理解することができる。 ・医学的観点から認知症を理解し、根拠ある介護を展開する基礎を固める。 ・実践的な介護を展開するうえで必要な思考を学び、介護過程展開へとつなげる事が出来る。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	1章1節 認知症とは何か		9	2章5節 認知症の原因疾患と症状	
2	1章2節 脳のしくみ		10	2章5節 認知症の原因疾患と症状	
3	2章 認知症のさまざまな症状		11	2章5節 認知症の原因疾患と症状	
4	2章 認知症のさまざまな症状		12	若年性認知症	
5	認知症の検査と診断		13	2章6節 認知症の治療薬	
6	認知症と鑑別すべき症状・疾患		14	2章6節 認知症の治療薬	
7	2章5節 認知症の原因疾患と症状		15	認知症の人の心理	
8	2章5節 認知症の原因疾患と症状				

### 講義方法

- ・テキストを基にした講義
- ・グループワークおよび演習
- ・必要に応じてフィールドワークを行う

### 講義で使用する機器・教材

教科書、iPad、

### 履修上の注意事項

- ・テキストやノート類、配布資料の整理
- ・提出期限厳守-評価における減点対象

### 成績評価方法

レポート、期末試験100%

### 教科書

認知症の理解(中央法規出版)

参考書:人体解剖図、脳の事典

適宜指示

### 予習復習のアドバイス

「こころとからだのしくみ」「社会の理解」「生活支援技術」と関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な認知症介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	障害の理解 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b> ・障害の基礎理解として障害の基本理念、障害の概念、障害福祉の基礎を学ぶ。 ・医学的側面からの基礎的知識の身体、精神、知的、発達障害を学ぶ。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	1章1節 障害の概念		9	2章6節・7章 内部障害・重症心身障害	
2	1章2節 障害者福祉の基本理念		10	3章1節 知的障害の基本理解	
3	1章3節・4節 障害者福祉の現状と施策・障害者就労		11	3章2節 精神障害の基本的理解	
4	2章 障害の心理的理解		12	3章3節 高次脳機能障害の基本理解	
5	2章2節 身体障害の基本的理念		13	3章4節 発達障害の基本的理解	
6	2章2節 肢体不自由・視覚障害		14	3章5節 難病の基本的理解	
7	2章3節・4節 視覚障害・聴覚障害		15	まとめ	
8	2章5節・6節 重複障害・内部障害				

**講義方法**

テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。  
各実習室を使用して実技演習を行う。

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項****成績評価方法**

期末試験(小テスト含む)100%

**教科書**

障害の理解(中央法規出版)

**参考書**

適宜指示

**予習復習のアドバイス**

- ・事前にテキストを読み、予習した状態で授業に臨むこと。
- ・授業資料を事前に確認しておくこと。

## 講義要項(シラバス)

<b>年度</b>	2022年度	<b>時期</b>	通年	<b>学年</b>	1
<b>学科</b>	介護福祉科	<b>講義時間</b>	時間割参照		
<b>科目名</b>	こころとからだのしくみ I	<b>講義曜日</b>	時間割参照	<b>講義回数</b>	35/45
		<b>単位時間数</b>	70/90	<b>単位数</b>	3
<b>講師名</b>	木田 真千子	<b>実務経験</b>	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる人間の感覚や基礎的な心理的事項、人体の形態や機能の基本的事項について理解できる。				
<b>講義目標</b>	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだのしくみや動きを学び、機能低下した際日常生活に及ぼす影響をイメージし、説明できるようになる。</li> <li>・解剖生理学からみた心理およびこころのしくみを学習し、介護実践に応用できる能力を養う。また、介護福祉士として心理上の自己管理を行えるようになる。</li> </ul>				
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>		<b>回数</b>	<b>講義内容</b>	
1	オリエンテーション・シラバス説明 からだのしくみの理解		20	からだのしくみの理解	
2	からだのしくみの理解		21	からだのしくみの理解	
3	からだのしくみの理解		22	からだのしくみの理解	
4	からだのしくみの理解		23	からだのしくみの理解	
5	からだのしくみの理解		24	小テスト・1章振り返り	
6	からだのしくみの理解		25	小テスト・2章振り返り	
7	からだのしくみの理解		26	小テスト・2章振り返り	
8	からだのしくみの理解		27	小テスト・2章振り返り	
9	からだのしくみの理解		28	小テスト・2章振り返り	
10	からだのしくみの理解		29	小テスト・2章振り返り	
11	からだのしくみの理解		30	小テスト・2章振り返り	
12	からだのしくみの理解		31	小テスト・3章振り返り	
13	からだのしくみの理解		32	小テスト・3章振り返り	
14	からだのしくみの理解		33	小テスト・8章振り返り	
15	からだのしくみの理解		34	小テスト・9章振り返り	
16	からだのしくみの理解		35	まとめ	
17	からだのしくみの理解				
18	からだのしくみの理解				
19	からだのしくみの理解				

**講義方法**

テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う  
各実習室を使用して実技演習を行う

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・提出物・レポートは指定の方法で提出し、期限を厳守すること。(期限を過ぎた場合の受け取りは行わない)

**成績評価方法**

レポート、期末試験100%(木田80%、河村20%)

※未提出、提出遅れ、内容不足は減点となるため、留意すること。

**教科書**

こころとからだのしくみ(中央法規出版)

**参考書**

人体解剖図、脳の事典

**予習復習のアドバイス**

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。



## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。				
	<b>到達目標</b> ・介護サービスの特性を知り、チームマネジメントの基本となる考え方を説明できる。 ・リーダーシップ、フォロワーシップの役割について説明できる。 ・OJT、Off-JTなどの人材育成のしくみ・方法について概要を説明できる。 ・組織の構造を理解し、どのように管理されているか理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ヒューマンサービスとしての介護サービス	11	介護サービスを支える組織の構造
2	介護現場で求められるチームマネジメント	12	介護サービスを支える組織の機能と役割
3	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	13	介護サービスを支える組織の管理
4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	14	介護実践におけるチームマネジメントの実際①
5	チームでケアを展開するためのマネジメント	15	介護実践におけるチームマネジメントの実際②
6	チームの力を最大化するためのマネジメント	16	
7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	17	
8	介護福祉職としてのキャリアデザイン	18	
9	介護福祉職のキャリア支援・開発	19	
10	自己研鑽に必要な姿勢	20	

**講義方法**

講義、演習、小テスト

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

ミニテスト40%、レポート50%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版

**参考書****予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	社会の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	一般目標 介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得するため、高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護などの制度・施策について理解する。				
	到達目標 ・高齢者福祉制度の基本的なしくみと介護保険制度について説明できる。 ・障害者福祉制度の基本的なしくみと障害者総合支援法について説明できる。 ・介護実践に関連する諸制度の概要について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高齢者保健福祉の動向	11	障害者総合支援制度②
2	高齢者保健福祉に関連する法体系	12	個人の権利を守る制度・施策
3	介護保険制度創設の背景と目的	13	保健医療に関する制度・施策
4	介護保険制度①	14	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策
5	介護保険制度②	15	地域生活を支援する制度・施策
6	介護保険制度の動向	16	
7	障害保健福祉の動向	17	
8	障害保健福祉に関連する法体系	18	
9	障害者総合支援制度創設の背景と目的	19	
10	障害者総合支援制度①	20	

**講義方法**

講義、演習、小テスト

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験70%、小テスト20%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版

**参考書**

福祉小六法 2022

国民の福祉と介護の動向 2021/2022

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年	時期	通年	学年	2年
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	国際理解と外国人交流	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	木田真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解及び国際的な視野を養う 多文化共生の理解と地域の繋がりを理解し自己覚知でき対人援助コミュニケーションにおける心を育む				
	<b>到達目標</b> 外国人留学生との交流をもつことで外国人と諸外国の文化や宗教に触れ外国人の特性を理解する 多様化する介護福祉施設での外国人と接する機会をもつことで、知識として持っている接遇を実践しコミュニケーションについての意識を高める。 変容する日本社会と国際理解及び多文化共生について理解する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学外研修(オリエンテーション)	9	多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態
2	学外研修(松陽苑)	10	多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態の感想
3	学外研修(松陽苑)	11	国際理解(映像学習)
4	学外研修(松陽苑)	12	国際理解(映像学習)まとめ
5	学外研修(松陽苑)	13	外国人留学生交流会
6	学外研修でのまとめ	14	外国人留学生交流会
7	学外研修でのまとめ	15	外国人留学生交流会まとめ
8	多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態		

**講義方法**

特別講義・演習・グループワーク

学外研修

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。
- ・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。

**成績評価方法**

授業態度及びレポートや課題で評価するため期日内提出を心掛けること。

レポート・課題(80%)、授業態度(20%)

**教科書****参考書**

適宜資料配布

**予習復習のアドバイス**

事前配布資料を基に学習を進めることが望ましい。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活技術	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	一般目標 生活に必要な基礎的な技術を身につけ、生活するための能力を養うことができる				
	到達目標 ・調理に基本を理解し、簡単な調理をすることができる ・洗濯の仕方や衣類管理について理解することができる ・生活にかかわる社会的規則についてを理解することができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	調理支援が必要な対象者の理解	9	栄養素
2	調理実習 レシピ確認・準備	10	食材の管理と食中毒
3	食材の下処理、加工の理解	11	掃除
4	調理実習 レシピ確認・準備	12	衣服の管理・洗濯
5	献立の作成方法	13	冠婚葬祭のマナー
6	調理実習 レシピ確認・準備	14	まとめ
7	食品購入・物品準備	15	試験
8	食品購入・物品準備		

**講義方法**

講義・演習

**講義で使用する機器・教材**

生活用具全般(調理器具、洗濯用品等)

**履修上の注意事項**

配布物の管理;ファイリングするなどし、授業時には持参する  
調理時には衛生面に留意し、身だしなみ等も整えて出席する

**成績評価方法**

筆記試験 100%

**教科書**

生活支援技術Ⅰ(中央法規出版)、生活支援技術Ⅱ(中央法規出版)

**参考書**

適宜資料配布

**予習復習のアドバイス**

技術を習得するために、家庭においても復習すること



## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	情報処理	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。				
講義目標	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MicrosoftOffice (Word、Excel) の基本操作ができる。</li> <li>・介護現場で行われているMicrosoftOfficeを使用したパソコン業務を疑似体験できる。</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	Windows10の基礎	11	Excel・基礎
2	Word・基礎	12	Excel・応用(勤務表作成)
3	Word・基礎	13	Excel・応用(勤務表作成)
4	Word・応用(議事録作成)	14	Excel・応用(勤務表作成)
5	Word・応用(疑似事故防止委員会)	15	Excel・応用(勤務表作成)
6	Word・応用(疑似事故防止委員会)	16	
7	Word・応用(疑似事故防止委員会)	17	
8	Excel・基礎	18	
9	Excel・基礎	19	
10	Excel・基礎	20	

### 講義方法

基礎は教科書中心に、応用は介護現場で行われている業務を疑似体験しながらマシン実習を行う。

### 講義で使用する機器・教材

プロジェクター

### 履修上の注意事項

- ・授業には休まず毎日出席すること、欠席は提出課題作成などの遅れとなる。
- ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋げる。
- ・テキストを参照しながら授業を進めるので、テキストは忘れないこと。

### 成績評価方法

小テスト10%、提出物80%、授業態度10%

※提出物の評価基準は都度説明する。

### 教科書

「30時間でマスターOffice2019」(実教出版)

### 参考書

### 予習復習のアドバイス

特に予習復習の必要はなし。

課題作成の遅れは、授業の空きコマや放課後に各自マシンを使用し実習できる。

(ただしマシンは他科と共有のため利用状況を教員に確認してください。)

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
	<b>到達目標</b> ・介護におけるリスクマネジメントの必要性を説明できる。 ・安全の確保のための基礎的な知識や事故の対応を説明できる。 ・他職種連携・協働の必要性と効果について説明できる。 ・介護従事者自身の健康管理や労働環境の管理について説明できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	介護における安全確保①		21	多職種連携③	
2	介護における安全確保②		22	多職種連携④	
3	リスクマネジメント①		23	多職種連携⑤	
4	リスクマネジメント②		24	健康管理①	
5	危険予知トレーニング①		25	健康管理②	
6	危険予知トレーニング②		26	健康管理③	
7	事故防止・安全対策①		27	こころの健康管理	
8	事故防止・安全対策②		28	身体の健康管理	
9	事故防止・安全対策③		29	労働環境の整備	
10	感染症対策①		30	私の介護観	
11	感染症対策②		31		
12	感染症対策③		32		
13	感染症対策④		33		
14	感染症対策⑤		34		
15	感染症対策⑥		35		
16	多職種連携・協働の必要性①		36		
17	多職種連携・協働の必要性②		37		
18	多職種連携・協働に求められる基本的能力		38		
19	多職種連携①		39		
20	多職種連携②		40		

**講義方法**

講義、演習、小テスト

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験70%、小テスト20%、授業態度10%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版

**参考書**

国民の福祉と介護の動向2021/2022、福祉小六法2022

※使用する参考書は適宜指示

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> コミュニケーションの基礎的な知識を復習し、各障害特性をコミュニケーション技術に特化した視点で理解できる。				
	<b>到達目標</b> ・多職種連携とチームコミュニケーションを理解し、実践で活用することができる。 ・各障害特性について再学習し、コミュニケーション障害について説明することができる。 ・各障害特性に合わせたコミュニケーション技術を習得し、実践で活用することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション / コミュニケーション障害の理解	9	チームコミュニケーションの概要
2	障害体験による障害の理解	10	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的
3	視覚障害者の理解とコミュニケーション支援方法	11	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的②
4	聴覚障害者の理解とコミュニケーション支援方法	12	記録の意義
5	構音障害者の理解とコミュニケーション支援方法	13	記録の実際
6	失語症の理解とコミュニケーション支援方法	14	情報の活用と管理のための技術
7	認知症の理解とコミュニケーション支援方法	15	会議の種類と運用
8	高次脳機能障害者の理解とコミュニケーション支援方法		

**講義方法**

講義・グループワークをおり交ぜた学習。  
演習を行い、実践で活用できる技術を学ぶ。

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

遅刻・欠席がないことが望ましい。

**成績評価方法**

提出物:10% 筆記試験:90%

**教科書**

最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術

**参考書****予習復習のアドバイス**

- ・コミュニケーション技術 I で学んだことを復習したうえで講義に臨むこと。
- ・他科目と連動する内容があるため、当科目だけで終結せずに関連付けする必要がある。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ (形態別介護)	講義曜日	時間割参照	講義回数	40/60
		単位時間数	80/120	単位数	4
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> ①障害や疾病のある人について医学的、心理的側面から理解する ②生活上の困りごとを理解する ③障害や疾病がある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する				
	<b>到達目標</b> ・各種障害の症状、特性を知る ・障害に対するソーシャルサポートを理解し、活用できる ・福祉住環境整備を含めた総合的な支援体制を理解する ・各種障害に応じた身体的、心理的支援ができる				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	1章 利用者の状態・状況に応じた生活技術とは		21	内部障害(肝臓)に応じた介護	
2	2章 肢体不自由に応じた介護		22	内部障害まとめ	
3	肢体不自由に応じた介護		23	内部障害まとめ	
4	視覚障害に応じた介護		24	重症心身障害に応じた介護	
5	視覚障害に応じた介護		25	重症心身障害に応じた介護	
6	聴覚障害に応じた介護		26	重症心身障害に応じた介護	
7	聴覚障害に応じた介護		27	3章) 知的障害に応じた介護	
8	聴覚・言語障害に応じた介護		28	知的障害に応じた介護	
9	重複障害に応じた介護		29	知的障害に応じた介護	
10	重複障害に応じた介護		30	精神障害に応じた介護	
11	重複障害に応じた介護		31	精神障害に応じた介護	
12	重複障害に応じた介護		32	高次脳機能障害に応じた介護	
13	重複障害に応じた介護		33	高次脳機能障害に応じた介護	
14	重複障害に応じた介護		34	発達障害に応じた介護	
15	内部障害(心臓)に応じた介護		35	発達障害に応じた介護	
16	内部障害(呼吸器)に応じた介護		36	発達障害に応じた介護	
17	内部障害(腎臓)に応じた介護		37	ALSに応じた介護	
18	内部障害(膀胱・直腸障害)に応じた介護		38	パーキンソン病に応じた介護	
19	内部障害(小腸機能障害)に応じた介護		39	悪性関節リウマチに応じた介護	
20	内部障害(HIV)に応じた介護		40	筋ジストロフィーに応じた介護	

### 講義方法

一般教室による講義を中心に必要教材を用いて授業を展開する。  
グループワーク等の演習の機会を作り、考えを互いに共有し合う。  
学外実習での課題、レポート等提出について適宜指示する。

### 講義で使用する機器・教材

iPad必須

### 履修上の注意事項

- ・配布資料等は毎回持参し、授業に活用していくこと。
- ・質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
- ・居眠りや欠席・遅刻は授業に影響することを自覚し、授業に集中出来るよう努めること。私語を控えること。
- ・学外実習時も出席率に反映する。
- ・学外実習時の提出物や遅刻、早退、実習態度も評価に反映する。

### 成績評価方法

期末試験90% 学外実習10%

### 教科書

生活支援技術Ⅲ(中央法規出版)

### 参考書

適宜指示

### 予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく
- ・専門用語は早期に調べ、授業時に使用する用語の理解に努める



## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ(家事・調理)	講義曜日	時間割参照	講義回数	9/60
		単位時間数	18/120	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 家庭生活の中での家事、調理の必要性を理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。				
	<b>到達目標</b> ・生活全般における家事の基礎知識についての理解ができる。 ・基本的な食材・調理の知識及び技術を身につけることができる。				

回数	講義内容
1	調理支援演習①～献立の確認・物品準備～
2	調理支援演習①～調理(メイン:唐揚げ)・盛り付け～
3	調理支援演習①～片づけ～
4	調理支援演習②～献立の確認・物品準備～
5	調理支援演習②～調理(メイン:餃子)・盛り付け～
6	調理支援演習②～片づけ～
7	調理支援演習③～献立の確認・物品準備～
8	調理支援演習③～調理(応用)・盛り付け～
9	調理支援演習③～片づけ～

**講義方法**

調理実習室を使用しての実技演習。

**講義で使用する機器・教材**

iPad、献立

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・調理実習室では食材を扱うため、清潔に努める。身だしなみを整え実習に臨むこと。
- ・調理実習室では刃物等を使用するため、細心の注意をはらうこと。
- ・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。

**成績評価方法**

レポート:10% 期末試験:90%

**教科書**

生活支援技術 I (中央法規出版)

**参考書**

適宜指示を出す。

**予習復習のアドバイス**

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ(家庭生活)	講義曜日	時間割参照	講義回数	5/60
		単位時間数	10/120	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 家庭生活の営みを理解した上で、利用者の個性に対応できる技術・能力を身につける。				
	<b>到達目標</b> ・栄養や食材管理について理解し、適切に支援することができる。 ・家庭生活という大枠から、経営を中心に介護福祉職としての役割を理解し説明、対応することができる。				

回数	講義内容
1	家庭生活の理解
2	生活設計の考え方
3	消費者保護に関する理解
4	まとめ
5	試験
<b>講義方法</b> テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。	
<b>講義で使用する機器・教材</b> iPad必須	
<b>履修上の注意事項</b> ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。	
<b>成績評価方法</b> レポート:10% 期末試験:90%	
<b>教科書</b> 生活支援技術Ⅰ(中央法規出版)	
<b>参考書</b> 適宜指示を出す。	
<b>予習復習のアドバイス</b> ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。	

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護過程Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	45
		単位時間数	90	単位数	3
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 要介護者のアセスメント～ニーズの抽出についてICFを用いた展開が理解でき、計画策定ができる。また、モニタリング～評価の段階でICFを活用し、再アセスメントを行える。				
	<b>到達目標</b> ・ケアマネジメントと介護過程の関係性と多職種協働の重要性が理解できる。 ・アセスメント～ニーズの抽出においてICF生活モデルの概念を活用できる ・福祉的観点および医療的観点を統合した適切かつ現実的なケアプランの策定ができる ・ICFおよび介護過程の展開を「もとにして」要介護者のQOL評価を考える機会とする				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	介護過程とケアマネジメントの関係性(P136～147)		21	介護実習Ⅱ.1フィードバック	
2	介護計画の意義と目標設定(P59～68)		22	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
3	介護計画の意義と目標設定(P59～68)		23	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
4	事例を基にした介護過程の展開演習		24	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
5	事例を基にした介護過程の展開演習		25	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
6	事例を基にした介護過程の展開演習		26	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
7	事例を基にした介護過程の展開演習		27	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
8	事例を基にした介護過程の展開演習		28	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
9	事例を基にした介護過程の展開演習		29	介護実習Ⅱ.1事例研究発表	
10	事例を基にした介護過程の展開演習		30	介護実習Ⅱ.1事例研究発表	
11	事例を基にした介護過程の展開演習		31	介護実習Ⅱ.1事例研究発表	
12	事例を基にした介護過程の展開演習		32	介護の実施の意義と留意点(P69～70)	
13	事例を基にした介護過程の展開演習		33	実施の記録の種類と留意点(P70～74)	
14	事例を基にした介護過程の展開演習		34	評価の意義と目的(P75～80)	
15	事例を基にした介護過程の展開演習		35	評価の意義と目的(P75～80)	
16	事例を基にした介護過程の展開演習		36	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
17	事例を基にした介護過程の展開演習		37	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
18	事例を基にした介護過程の展開演習		38	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
19	事例を基にした介護過程の展開演習		39	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
20	介護実習Ⅱ.1フィードバック		40	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	

41	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	44	介護実習Ⅱ.2事例研究発表
42	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	45	介護実習Ⅱ.2事例研究発表
43	介護実習Ⅱ.2事例研究発表		
<b>講義方法</b>			
座学および演習・グループワーク			
<b>講義で使用する機器・教材</b>			
iPad・カンファレンスシート			
<b>履修上の注意事項</b>			
介護福祉士として核となる科目のため一切欠席しないこと			
<b>成績評価方法</b>			
筆記試験 50%    事例展開 20%    研究発表 30% で評価する			
<b>教科書</b>			
介護過程(中央法規出版)、生活支援技術、こころとからだのしくみ、障害の理解 等			
<b>参考書</b>			
<b>予習復習のアドバイス</b>			

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護総合演習Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護老人福祉施設に介護福祉士として10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 介護実習Ⅱの目標を理解し、明確な自己課題のもとに実習を展開することができる。また、実習展開の計画を立案でき、実践・振り返りからを行える。				
	<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所の法的根拠をもとに介護福祉士の役割と職域、今後により方を考えることができる</li> <li>・介護福祉士として明確な根拠に基づいた生活支援を行うことができる</li> <li>・実習において自身の課題および目標を明瞭な文章で標記でき、実習内容に即した計画を立案できる</li> <li>・実習からの振り返りに関して学習課題、修正すべきポイントを抽出し、就業までに完成した介護福祉士を目指す</li> </ul>				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	Ⅱ.1実習先発表(個人票・自己課題作成)		16	Ⅱ.2実習先発表(個人票・自己課題作成)	
2	Ⅱ.1実習先発表(個人票・自己課題作成)		17	Ⅱ.2実習先発表(個人票・自己課題作成)	
3	Ⅱ.1実習先発表(個人票・自己課題完成)		18	Ⅱ.2実習準備(実技・知識等)	
4	目標設定と実習計画作成		19	Ⅱ.2実習準備(実技・知識等)	
5	目標設定と実習計画作成		20	Ⅱ.2実習準備(実技・知識等)	
6	目標設定と実習計画作成(個人票・自己課題完成)		21	帰校日(1回目) 課題抽出・計画立案	
7	事前学習		22	帰校日(1回目) 課題抽出・計画立案	
8	事前学習(実習前日最終確認)		23	帰校日(2回目) 計画立案・実施	
9	事前学習(実習前日最終確認)		24	帰校日(2回目) 計画立案・実施	
10	帰校日(1回目) 課題抽出		25	Ⅱ.2実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	
11	帰校日(1回目) 課題抽出		26	Ⅱ.2実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	
12	帰校日(2回目) 計画立案		27	介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成	
13	帰校日(2回目) 計画立案		28	介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成	
14	Ⅱ.1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)		29	介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成	
15	Ⅱ.1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)		30	介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成	

**講義方法**

座学および個人演習・グループ演習

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

介護実習の一環としての意識を持ち、一切欠席のないことが望まれる。

**成績評価方法**

課題・資料の提出及び内容100%

※未提出、提出遅れ、内容不足は減点となるため、留意すること。

**教科書**

介護総合演習・介護実習(中央法規出版)

**参考書****予習復習のアドバイス**

介護過程と連動させての自己学習を必ず行うこと

実習後の振り返りを確実に行うこと

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	認知症の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	9
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	木田真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> ・認知症の人の生活を理解し、対人援助の基本である個別性を尊重した生活支援がわかる。 ・認知症の人とその家族が抱える課題について、多職種の方々として連携して認知症ケアを実践できる基礎を学ぶ。				
	<b>到達目標</b> ・認知症の人の心的不安と生活困難さを理解して、生活を理解して、個別性の生活の質の向上を考えることができる。 ・地域における認知症ケアの意義を理解して、職種間の連携及び協働を図るための知識を習得する。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	認知症の人へのさまざまなかかわり		9	認知症体験(VR:ツクイ株式会社)	
2	認知症の人へのさまざまなかかわり		10		
3	5章 認知症の人を介護する家族の状況		11		
4	5章 認知症の人を介護する家族の状況		12		
5	5章 家族への支援		13		
6	第6章 地域におけるサポート体制		14		
7	第6章 地域におけるサポート体制		15		
8	認知症体験(VR:ツクイ株式会社)				



### 講義方法

- ・テキストを基にした講義
- ・グループワークおよび演習
- ・必要に応じてフィールドワークを行う

### 講義で使用する機器・教材

教科書、iPad、

### 履修上の注意事項

- ・テキストやノート類、配布資料の整理
- ・提出期限厳守-評価における減点対象

### 成績評価方法

- ・受講態度、グループワーク、演習の参加態度

学期末考査100%(白井先生50%:木田50%)

### 教科書

認知症の理解(中央法規出版)

参考書:人体解剖図、脳の事典

適宜指示

### 予習復習のアドバイス

「こころとからだのしくみ」「社会の理解」「生活支援技術」と関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な認知症介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	障害の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 障害者福祉の理念と地域レベルでの支援体制を理解し本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解し基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b> ・障害者総合支援法と地域での障害サポート体制について理解する ・行政、関係機関の役割と現状について理解する ・障害の受容および介護福祉士としての支援方法を理解する ・障害者をもつ家族の状況と家族へのケアについて理解する				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション・シラバス説明・復習		9	障害のある人の特性に応じた支援の内容	
2	3章障害に伴う機能の変化と生活への影響の基本的理解		10	4章・連携と協働 地域におけるサポート体制	
3	生活と障害		11	4章・2節 チームアプローチ	
4	生活上の課題と支援の在り方		12	多職種連携と協働	
5	障害者をとりまく環境		13	5章・家族への支援 障害を持つ人の家族の状況	
6	障害がある人への手帳		14	5章・2節 家族の介護力の評価と介護負担の軽減	
7	障害がある人の自立支援		15	まとめ	
8	QOLを高める支援のための理解				

**講義方法**

座学、演習、板書、グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

教科書、iPad、

**履修上の注意事項**

障害別生活支援技術に関連付けた学習を行うこと

**成績評価方法**

期末試験100%

**教科書**

障害の理解(中央法規出版)

参考書:人体解剖図、脳の事典

**予習復習のアドバイス**

他科目との関連を持った自己学習を継続すること

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	こころとからだのしくみⅡ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>  生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。				
	<b>到達目標</b> ・介護福祉士の特性を理解し、日常生活を俯瞰的に観ることができる  ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解できるようにする。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション・シラバス説明		9	5章3節 食事に関連したこころとからだの変化	
2	第4章1節 身じたくに関連したこころとからだのしくみ		10	6章・1節 入浴・清潔保持のしくみ	
3	第4章2節 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響		11	6章・2節 機能低下・障害が入浴に及ぼす影響	
4	第4章3節 変化の気づきと対応		12	6章・3節 入浴・清潔保持に関連した変化の気づきと対応	
5	第4章3節 変化の気づきと対応		13	7章・1節排泄に関連したこころとからだのしくみ	
6	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ		14	7章2節 機能低下、障害が排泄に及ぼす影響	
7	5章2節 機能低下・障害が食事に及ぼす影響		15	7章・3節生活面における排泄に関連した変化の気づき	
8	5章3節 食事に関連したこころとからだの変化				

**講義方法**

iPad/板書/口頭にて行う

**講義で使用する機器・教材**

教科書、iPad、

**履修上の注意事項**

介護実習・介護過程・生活支援技術関連科目のため欠席のないことが望ましい

**成績評価方法**

期末試験100%

**教科書**

こころとからだのしくみ(中央法規出版)

**参考書**

人体解剖図、脳の事典(成美堂出版)

**予習復習のアドバイス**

必ず復習を行い、知識を確実なものとしないうり期末試験の合格は困難になるため、自己学習を欠かさないこと

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	医療的ケア	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全、適切に実施できるよう必要な知識、技術を修得する				
	<b>到達目標</b> (1) 医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について理解する (2) 医療的ケアに関する法制度や倫理を理解する (3) 感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解する				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	人間と社会		16	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	
2	人間と社会		17	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	
3	保健医療制度とチーム医療		18	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	
4	保健医療制度とチーム医療		19	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	
5	安全な療養生活		20	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	
6	安全な療養生活		21	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	
7	安全な療養生活		22	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	
8	清潔保持と感染予防		23	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	
9	清潔保持と感染予防		24	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	
10	健康状態の把握		25	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	
11	健康状態の把握		26	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	
12	健康状態の把握		27	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	
13	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論		28	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	
14	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論		29	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	
15	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論		30	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	

**講義方法**

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。

実習室を利用して実技演習を行う。

**講義で使用する機器・教材**

i pad必須。演習用人体モデル

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
- ・提出物の提出期限に注意すること。

**成績評価方法**

期末試験100%

**教科書**

医療的ケア(中央法規出版)

**参考書**

適宜持参

**予習復習のアドバイス**

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	医療的ケア(演習)	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	2
講師名	木田 真千子	実務経験	医療機関(総合病院)15年、障害児施設・介護老人福祉施設8年、看護師として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全、適切に実施できるよう必要な知識、技術を修得する				
	<b>到達目標</b>				
	(1)介護福祉士が行える領域の理解ができ安全に喀痰吸引、経管栄養が実施できる				
	(2)標準予防策を確実に実施できる。				
	(3)救急蘇生法について理解し実施できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	口腔内の喀痰吸引		13	気管カニューレ内部の喀痰吸引	
2	口腔内の喀痰吸引		14	気管カニューレ内部の喀痰吸引	
3	口腔内の喀痰吸引		15	胃瘻又は腸瘻による経管栄養	
4	口腔内の喀痰吸引		16	胃瘻又は腸瘻による経管栄養	
5	鼻腔内の喀痰吸引		17	胃瘻又は腸瘻による経管栄養	
6	鼻腔内の喀痰吸引		18	胃瘻又は腸瘻による経管栄養	
7	鼻腔内の喀痰吸引		19	胃瘻又は腸瘻による経管栄養	
8	鼻腔内の喀痰吸引		20	経鼻経管栄養	
9	気管カニューレ内部の喀痰吸引		21	経鼻経管栄養	
10	気管カニューレ内部の喀痰吸引		22	救急蘇生法	
11	気管カニューレ内部の喀痰吸引		23	救急蘇生法	
12	気管カニューレ内部の喀痰吸引				



**講義方法**

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。

実習室を利用して実技演習を行う。

**講義で使用する機器・教材**

i pad必須。演習用人体モデル

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
- ・評価表の紛失は実技試験の評価に影響する。

**成績評価方法**

実技試験100% (評価表紛失も含む)

**教科書**

医療的ケア(中央法規出版)

**参考書****予習復習のアドバイス**

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。
- ・習得できるまで練習すること。